

第31回 安全設計分科会 議事録

1. 日 時 平成26年3月5日(水) 13:30~15:00

2. 場 所 日本電気協会 4階B, C会議室

3. 出席者(敬称略, 五十音順)

出席委員: 古田分科会長(東京大学), 田中幹事(関西電力), 阿部(東北電力), 石倉(電源開発), 大橋(富士電機), 河井(原子力安全推進協会), 北村(三菱電機), 倉田(北陸電力), 米野(日本原電), 佐々木(日立GEニュークリア・エナジー), 新藤(電力中央研究所), 鈴木(日本原子力研究開発機構), 高橋(三菱重工業), 成田(北海道大学名誉教授), 原田(九州電力), 三村(東芝), 山口(中国電力) (17名)

代理委員: 米田(北海道電力・南保代理), 松本(中部電力・竹山代理) (2名)

常時参加: 江畑(原子力規制庁), 新郷(日本原電・小森常時参加代理) (2名)

オブザーバ: 小倉(ウツエバルブサービス) (1名)

欠席委員: 門屋(四国電力), 水門(電事連), 高木(東京都市大学), 山中(東京電力), 吉川(京都大学名誉教授) (4名)

事務局: 荒川, 鈴木, 田村(日本電気協会) (3名)

4. 配付資料

資料 No. 31-1 第30回 安全設計分科会 議事録(案)

資料 No. 31-2-1 原子力規格委員会 安全設計分科会 委員名簿(案)

資料 No. 31-2-2 原子力規格委員会 安全設計分科会 検討会委員名簿(案)

資料 No. 31-3 平成25年度活動実績及び平成26年度活動計画(案)

資料 No. 31-4 「各分野の規格策定活動」平成26年度見直し案

参考資料-1 第49回原子力規格委員会 議事録(案)

参考資料-2 分科会委員構成の中立性, 透明性について

参考資料-3 「学協会規格整備計画52項目」の見直し実施状況(経過報告)

参考資料-4 第1回 日本電気協会原子力規格委員会シンポジウム(案)

参考資料-5 日本電気協会 原子力規格委員会規約

参考資料-6 平成25年度 各分野の規格策定活動

5. 議事

(1) 代理出席者の承認, 会議定足数の確認

事務局より本日の代理出席者2名を紹介し, 分科会長の承認を得た。また, 委員総数24名に対し, 本日の出席者数は代理出席者を含めて19名であり, 会議開催条件の委員総数の3分の2以上(16名以上)の出席を満たしていることの報告があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局より、資料 No. 31-1 に基づき、前回議事録(案)の説明があり、原案通り承認された。

(3) 分科会長の選任

古田分科会長の2年間の任期が満了したことに伴い、分科会規約第4条(分科会長)に基づき、分科会長の選任を行った。

事務局から分科会長選任の手順を説明し、分科会長候補者の推薦を募ったところ、成田委員より古田委員の推薦があった。他に候補者の推薦がないことを確認し、出席委員による単記無記名投票を実施した。

投票の結果、古田委員が過半数の得票を得て新分科会長に選任された。

その後、分科会規約第5条(副分科会長及び幹事)第3項に基づき、田中委員(関西電力)が幹事に指名された。

(4) 委員の変更について

1) 分科会新委員の報告

事務局より参考資料-2に基づき、分科会委員構成の見直しについて説明があった。主な内容は以下のとおり。

- ・原子力規格委員会では、基本方針策定タスクを中心に、策定プロセスのより一層の公正性、公平性、公開性を確保することの検討を実施している。
- ・分科会委員構成について、他学会(原子力学会、機械学会)と同様に1業種委員を3分の1以下にする、特に学識経験者、学術研究機関の方を中心に委員を増強する。(規約上は1業種が過半数を超えないこととなっており、現状、安全設計分科会では、50%が電力委員となっている)
- ・12/17の第49回原子力規格委員会で方向性を報告し、現在、委員の増員を検討しているところ。
- ・3/31の第50回原子力規格委員会において新委員候補が承認予定であり、1業種の委員を3分の1以下にすることで進めている。

また、事務局より、資料 No. 31-2-1 に基づき、新委員候補の紹介があった。新委員候補者については、3/31の第50回原子力規格委員会で審議の予定。

2) 検討会委員の承認

事務局より、資料 No. 31-2-2 に基づき下記検討会の新委員候補の報告があり、決議の結果、委員として承認された。

- | | |
|--------------|-------------|
| a. 安全設計指針検討会 | 1名 |
| ・西田毅(北陸電力) | |
| b. 火災防護検討会 | 2名 |
| ・広木正志(日本原電) | ・松島博行(九州電力) |
| c. 耐雷設計検討会 | 1名 |
| ・守田俊也(日立GE) | |

- d. 原子力発電所緊急時対策所設計指針検討会 4名
- ・伊藤伸昭（中部電力）
 - ・高取孝次（中国電力）
 - ・末廣英伸（日本原燃）
 - ・君和田俊裕（電源開発）

(4) 安全設計分科会 平成26年度活動計画(案)の審議

1) 安全設計分科会 平成25年度活動実績及び平成26年度活動計画(案)の審議

資料 No. 31-3 に基づき、各検討会並びに事務局より、平成25年度活動実績及び平成26年度活動計画案の説明があった。

安全設計指針検討会：松本主査

火災防護検討会：事務局

計測制御検討会：新郷副主査

電気・計装品耐環境性能検討：事務局

耐雷設計検討会：事務局

原子力発電所緊急時対策所設計検討会：米野主査，新郷常時参加者

平成26年度活動計画案について挙手により決議し、全員賛成により可決された。主な意見、コメントは下記の通り。

- ・中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程において、被ばく評価は、緊急時対策所と連動して検討することはあるか。
→従来は設計基準事象で記載している。福島第一事故相当のソースタームについては新規制基準でガイドが出されたことから、この規格化を検討する必要がある。
- ・3学協会資料では、緊急時対策所の設計指針改定の優先度が高、中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程の優先度が低となっている。合わせる必要はないか。
→緊急時対策所設計指針は、運用側の JEAG4102 緊急時対策指針と歩調を合わせて改定作業を進めている。両規格とも来年度の改定を目途とした。

2) 各分野の規格策定活動(案)の審議

資料 No. 31-4 に基づき、事務局より各分野の規格策定活動の平成26年度見直し案について説明があった。下記コメントを反映し修正すること、修正した資料については、メールベースで確認することが承認された。

- ・1 ページ目の総括で、「・・・これまで以下の活動を実施してきた」とあるが、新たに追加した④の項目は、新規制基準施行の実績と、審査が進められているという状況を記載しているため、実績と予定を書き分ける必要がある。
→拝承。修正する。

6. その他

- (1) 事務局より、参考資料-4 に基づき、5/16（金）PM に原子力規格委員会のシンポジウムを計画していることの説明があった。
- (2) 次回の分科会は 平成26年5月頃とし、日程は別途各委員に連絡する。

以上